



UMEX 夢っくす ニュース

かわらばん

総会

高橋 和子

会計監査

令和3年9月20日（月）に大和公民館で令和2年度の会計監査が行われました。

今回は長年監事をなさって頂いた今成透さんに変わり、田中美智子さんに監事をお願いしました。

関矢秋子さんと田中美智子さんには、収入支出に伴う関係する書類、帳簿及び帳票類を慎重に監査頂き、何れも正確且つ適正であることを認めて頂きました。お二人共、有難う御座いました。

会長 高橋 和子



令和3年10月30日（土）に大和公民館にて総会を行いました。降雪前の貴重な秋晴れにも関わらずお集まり頂き、誠に有難う御座いました。

前回の総会から1年間、コロナの状況の先行きが分からず、我々の活動も思うように行うことができないまま、あっという間に月日が過ぎてしまいました。しかしながら、今年の10月に入りワクチン接種の効果なのか、全国的に感染者数も減少傾向になり、国際大学からも夢っくすの大学内での活動を再開してもよいというお話を頂きました。直ぐにロケットスタートという訳にはいきませんが、12月上旬には新しい学生さんも揃うのではないかと言うことでしたので、少しずつ様子を見ながら活動を再開したいと思っています。

それとは別に、このコロナ禍で多くの企業がオンラインでのテレワークへと働き方も変わってきています。既に会員の中には、オンラインでの日本語チューターを始められている方もいらっしゃいます。コロナがおさまってきたとはいえ、まだまだ直接人に会う回数を増やしたくないという方もいらっしゃると思いますし、当地は冬の間は雪も多く、わざわざ大学まで来るのはと悩まれている方も多いと思います。

今後は日本語チューターやイベント等もオンラインで参加できるように考えていく必要もあると思っています。もちろん、どのようにすれば良いのかと不安に思われて、オンラインでの活動を躊躇される方もいらっしゃるかも

しれませんが、夢っくすでも勉強会等を進めながら、幅広い活動ができるよう考えて行きたいと思っていますので、今後共、宜しくお願い致します。

会計担当紹介



この度、会計担当になりました勝又です。このコロナ禍、皆さんで集まって活動するにも制限がかかり、なかなか思うようには活動できない日々が続いており、気苦労も多い中ですが、微力ながらお役にたてれば幸いです。宜しくお願いします。

勝又 尚子



長岡悠久山公園花見

平野 浩子

桜シーズン到来の4月10日（土）に、長岡市悠久山公園にお花見に行ってきました。

コロナ禍で飲食など楽しむことのできる恒例の「桜まつり」は中止となっていました。市内でも有数の桜の名所ということもあり、ソメイヨシノやヤエザクラなど2,500本もの桜が美しく咲いていました。出かけること自体が困難な時期で、感染対策を駆使して何とか満開の桜を学生の皆さんと見ることができたのは本当によい思い出です。

現地では、浴衣に着替え各々で撮影会も。桜の花と浴衣姿の学生さんたちは園内でもとても華やかでした。公園内を進むと長岡城があり、城内ではこの地域の歴史やその展望スペースからは長岡の広大な眺めを一望することもできました。

少し肌寒く、風の吹く観桜会となりましたが、隣接する蒼紫神社や池に反射する桜の下で写真を撮ったりと、約2時間弱の滞在はあっという間でした。

この日、息子と手をつなぎ、桜の木の下を一緒に歩いてくれた優しい学生さんたち。時折この日の写真を見返しながら、一緒に見た桜吹雪を思い出しています。



A Visit to Yakushoji temple

My Study life at the International University of Japan is incomplete without UMEX. My days in Minamiuonuma became more colorful because of the kindness, friendliness, and hospitality of the UMEX team. At a welcome BBQ party for new students organized by UMEX, I was told by Mr Noguchi san from UMEX and shocked to hear that Mr Ba Maw, who was a Burmese political leader during the second world war, stayed for a few months in the Yakushoji Buddhist temple in the 1940s. I never imagined that Ba Maw was hidden in that temple during war time. Finally, I got a chance to visit that place before graduation day as Ms. Kazuko san from UMEX brought me there. Seeing the temple located on a small hill surrounded by beautiful scenery was very peaceful. There is a gigantic thousand-year-old tree and a small nice pond in front of the temple. I was really amazed to see the statue of sitting posture of Ba Maw in one of the chambers of the temple, where Ba Maw was lived during the war, and how things are well decorated with books written by Ba Maw. we were warmly welcomed by relative of Mr Imanari san who took care of Ba Maw, priest and temple people.



There are Buddha statues and a prayer room decorated with amazing wood sculptures in the center of the temple. I saw the pictures of the son of Ba Maw taken in the temple when he visited his father once shelter. I can imagine how Ba Maw's family and relatives feel much appreciated to the Japanese when they see how things related to their great man are well maintained. As a citizen of Myanmar, even me, I feel thankful to the Japanese people. Indeed, Yakushoji temple should be a must to visit for any Myanmar people who visited Minamiuonuma. When I left the temple, my spirit was left behind to enjoy the pleasing scenery of Yakushoji while reflecting the history and friendship between Japan and Myanmar.

Kyaw Thet Htwe

今年卒業したミャンマーからの留学生から、薬照寺を訪問した時の感想を寄せて頂きました。(6月23日【水】訪問)

着付

高橋 和子

昨年の4月は、まだまだコロナウィルスの事が良くわかっておらず、3月からは国際大学においても、学内への入校が制限され、夢っくすの活動もそれ以降休止状態が続いておりました。そんな中、今年に入り国際大学から今年の4月の校内の桜が開花する頃に着付ができないだろうか？との連絡がありました。夢っくすとしても、コロナ感染者が徐々に増加傾向にあり、ワクチン接種も行われる前で、第4波が心配されている頃でしたが、この1年半規制された生活が続き、これまでの卒業生のように、桜の時期を楽しめないのは本当に可哀想なことだと思い、2021年6月卒業予定の学生に限り着付を行うことに



しました。但し、例年のように一度に多くの学生や多くの夢っくすの会員に手伝ってもらうわけにもいかず、国際大学の職員さんの力も借りながら最小限の人数で感染対策（検温、手指消毒、換気、連絡先記入等）を行いながら開催させて頂きました。結局延べ10日間、子供さんも含めて合計84名の方への着付を行いました。開催することは容易ではありませんでしたが、多くの学生の方から感謝の言葉をもらい、着付に関わった私たちも大変うれしく思いました。まだ先の状況はわかりませんが、来年はもっと多くの方に着付ができることを願います。

最後になりましたが、着付を手伝ってくれた大学職員の角屋さん、会員の丸山きよ子さん、小島由美さん、平野浩子さん、大変有難うございました。

Are you still worried about homesickness when studying far from your home country? I bet you will not when studying at IUJ. Because in IUJ, you will meet and connect with UMEM members who are the most lovely and supportive local people like your family members. From the bottom of my heart, UMEM made my student life there be filled with care and excitement besides study. I could discover many interesting places, participate in many activities such as a flower-making class, tea ceremony, musical performances, hiking trips, plus gain a close relationship with many Japanese local people, all of which could have not been done without UMEM members

Especially in my second year, I could spend memorable moments with my close friends and take hundreds of beautiful photos with them when joining Kimono wearing experience arranged by UMEM. Thanks to the huge effort of UMEM in contacting the university and arranging the activity in the critical time of the pandemic, many of us who were in the second year could wear Kimono. Kazuko san and Yumi san helped us wear Kimono. They were very helpful to us from choosing the pat-



terns of Kimono, Obi, flowers for hair to taking photos of us as well. Wearing Kimono is one of the most beautiful memories in my life. Even now I enjoy watching my photos in Kimono from time to time.

Nghia, Nguyen Thi Thu

今年卒業したベトナムからの留学生から、着物の感想を寄せて頂きました。

修了式

櫻井 徳治

6月26日（土）、南魚沼市民会館で学位授与式が開催されました。昨年からコロナ感染防止のために会場には入れませんでした。今年は会員の有志が会場に参集し卒業を祝いました。

昨年は「卒業おめでとう」を扇扇に1文字ずつ書きエールを送りましたが、今年は、毎年使えるように横断幕を作成し、会場出口にそれを掲げ、多くの卒業生がそれをバックに写真を撮っていました。

自然豊かな南魚沼市に着いた時は田舎でびっくりしたことと思いますが、ここで生活し勉学できたことは、大きく豊かな体験ができたことと思います。

世界的にコロナ感染が広まっている状況ですが、南魚沼市にある国際大学で学んだことをベースに世界各国で活躍することを願っています。





牛の角突きを観戦して

小島 由美

まだ6月なのに真夏のような暑さの中「牛の角突き」を観、小千谷市の闘牛場に行きました。高橋さん、平野さん親子、そして学生さんとそのご家族4人が一緒です。私たちの知識と想像は「法被に地下足袋姿の勢子（せこ）さんが、闘牛に角突きをさせて、引き分けて終わらせる」ことくらいでした。何はともあれ全員が、これから起こる初めてのことに、声が上がると興奮していました。絵葉書のような棚田と田んぼの新鮮な緑の行列、また強い日差しに照らされて煌めく養鯉池が、私たちの高揚感を一層高めました。

駐車場に着くなり目に付いたのが「みまもり岩」という高さ2メートルほどの大きな岩です。平成16年10月23日の中越地震の際、大きな揺れで持ち上がり、地面に沈んだ衝撃で2つに割れたそうです。それが色も形も闘牛に似ていて、頭の位置に「面綱（おもづな）」を掛けています。また「みまもり岩」という名前には、3つの大切な意味が込められています。「東山地区を」見守る」「身を護る」「亡くなった3人のお子さんを「三鎮（みまも）る」。決して忘れてはならないと改めて胸に刻み、祈りを捧げました。

少し気持ちが落ち着いたらと道すがら闘牛の名入りの「のぼり旗」を眺めたり、思いがけなく空腹で戦闘モードを高めている闘牛たちと対面したりしました。手指消毒や検温、記名などの関門を通過し、ポスターまで頂戴して、何と千円で入場できました。更に英語のパンフレットと説明のイヤホンを無料で提供してくださり「助かった！」と思いました。係の男性の英語も素晴らしく、安心して外国人と一緒です。

いよいよ、大相撲のように儀式を執り行い、耳に心地よい朗々とした実況と解説の中、取組が始まりました。番付順、初土俵の闘牛からです。勢子長さんが拳手で合図をすると、牛の鼻に通された「鼻綱（はなぎ）」を外して、放り投げたら開始です。若い闘牛は、ぎこちなく突き合っている印象、未知の恐怖に加えて、闘い方がよく分からないのでしょうか。大木にぶつかって自主練するそうですが、。技の種類としては、睨みや威嚇、体重をかける、はたく、下からねじる、突進する、などです。実況と解説が詳しく、初心者でも大満足です。

この日の取組は19番あり、牛の出身地は岩手県が最多でした。他に秋田、福島、鹿児島、沖縄で、新潟はいませんでした。南の牛の角はカールしていて、突かれると痛そうなので、対戦では相手の牛を応援してしまいました。黒、白、茶色、どの牛も綺麗で、よく手をかけて育てられている様子でした。

番付が上がるとさすがの体格で、1トンにもなります。その重量感と迫力、躍動感と脚力に目を見張りました。コロナ禍のために観客は大声援ができないので、勢子さんたちの掛け声がよく耳に響きました。「ヨシター（良くやった）！」は、闘牛の為だけではなく、自身を鼓舞する為でもあるように感じました。人間も牛も全身全霊で闘っています。この日は足を負傷した闘牛がいて切なくなりましたが、近年は獣医師さんが待機されているそうです。

中入（なかいり）では、前日の6月5日に、東京五輪の聖火ランナーを務めた勢子さんたちが、トーチを掲げながら闘牛場を何周も走り、大拍手に応えていました。角突きで奮闘したのに休まずに走るなんて、アスリートだと思いました。

いよいよ結びの一番、横綱対決ではボルテージが一気に上がりました。横綱たちは16歳くらい、人間でいうと80歳超だそうです。彼らの風格は他を寄せ付けず、単に闘うだけではなくショーの魅せ方を熟知していました。威風堂々として入り、互いに睨みを利かせて、ついに「制限時間いっぱいです！」のようになり、こちらまで緊張感を味わいました。しかし鼻綱を外されてもなかなか突き合いません。何と、しばらく“利き足の前足(?)”で地面を蹴って、相手を威嚇しているのです！しかも解説によると、斜めに立ち合っているのは自分の大きな体を見せつける為だそうです。20人くらいの勢子さんたちも両手両足を広げ、掛け声に気合いを入れて手を叩いていました。私たちも自然と前のめりになりました。遂に角突きが始まると押しつ押しされつの大接戦で、心技体の充実ぶりがうかがえました。勢子長さんが「これ以上は闘わせない」という判断をして拳手で合図すると、勢子さんたちは更なる勇気を振り絞って鼻綱をつけにいきます。この「鼻取り」も大きな見せ場でした。牛を繋いでいる綱の制御は難しく、角を掴む攻防が繰り広げられ、ようやく鼻綱をはめると観念して大人しくなりました。この「鼻取り」は他の動物にも有効かな？などと想像してしまいました。

牛の角付きは必ず引き分けて終わらせます。牛に「自分はまだ闘える！」という自信を保たせる意味もあるそうで、牛持ちさんたちの優しさに気がきました。牛と人間との信頼関係の上に成り立ち、代々継承している「国指定重要無形民俗文化財」です。貴重な神事を体感し、十二分に堪能させていただいたことに感謝しながら、神秘的で美しい里山を下りました。



うおぬま国際交流協会

UONUMA Association for Multicultural EXchange



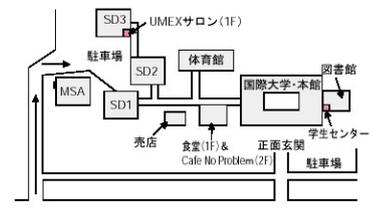
〒949-6609
新潟県南魚沼市八幡35-7
うおぬま国際交流協会（夢っくす）事務局

夢っくすサロン（国際大学第3学生寮1階）

TEL/FAX: 025-779-1520

E-Mail: office@umex.ne.jp

URL: <https://www.umex.ne.jp/>



担当者連絡先

高橋（会長、担当：サロン、多言語など）：070-5083-3123

櫻井（副会長、担当：イベントなど）：080-6608-4830

森山（担当：広報）：090-6945-9402

角屋（担当：キッズ）：090-8773-0329

【編集後記】

コロナ新規感染が減少していることもあり、国際大学でもキャンパスに来れる留学生が増えて、授業の主が対面式になっています。皆さんの日常は如何でしょうか？(toshi)

入会方法

入会の申込書は夢っくすのホームページから入手してください。現在、申込書はFAXでの受け取りはできませんので、右記の住所まで郵送をお願いします。会費とその振り込み先は以下となっておりますが、入金については振り込んでよいか事前にお問い合わせください。

年会費

個人会員：3,000円

家族会員：1,500円

団体会員：1口 10,000円から任意の口数

郵便口座

口座番号：00550-7-74672

口座名称：うおぬま国際交流協会